平成22年新年交礼会町長挨拶

新年あけましておめでとうございます。

皆様には大きな期待を抱き、真新しい気持ちで新しい年を迎えられたことと思います。

昨年は、町の運営、そして、様々な分野におけますご指導・ご支援を賜りましたことに感謝を申し上げます。

今回は、様々な事業展開の一端を、パワーポイントで紹介いたします。

この正月は、沢山のおせち料理や雑煮を食した事と思います。

おせち料理は様々な意味を持っているところですが、農に学び　食を生かした　町づくりを標榜していることから関心のあるところです。

多分、出されたものは、ありがたく　美味しくいただいたことと思いますが、今の世相に　当てはめて考えたとき、「出されたものは　何でも」ということでは、これまで国や北海道が決めたメニュー料理・味加減で、事が済んできたところです。

しかし、これからは、自分達で調理方法や料理・味加減も決めて行くことが求められている時代となりました。

この町・この地域の特色ある食材とふさわしい味にするこという町づくりということになります。

主体性を持ち、自己決定、自己責任が求められる分権時代の正しい選択態度をとることが大事であると思います。

但し、塩味　みそ味　カレー味　キムチ味　濃い味　薄味いろいろと好きな味は　多様で、大変なことであります。

そこで、重要になるのが、味付け以前に、大切なベースのだし作りに意味を持たせ地域性を出していくことではないかと思います。

今金ならではのダシと隠し味を見いだした　特色ある町づくりが一層求められる所と認識しています。

時代に適応した、新たな視点を持って、今まで通りにはならないということを肝に銘じる心得が必要であると思っております。

例えば、国に向けた要請のスタイルも変わってきていることから、私なりのアピールで地域の願いを伝えて来ています。

昨年の国縫道路の工事凍結に対する行動は全国に先駆けて訴えたことが効を奏し復活しました。国営農地再編事業のアピールも提案者として初めて市町村長と要請行動を行いました。

昨日は、臨時交付金による事業が数々行われました。有り難い臨時交付金に感謝していると、声を挙げている町長として、国に伝わり、直々総務省審議官から電話があり、上京したら来てくださいと言われ、お会いし、地域の声を伝えたところです。

確かに、全国の自治体首長は、予算要求はするが、予算がついても・・・どうもという声は聞いたことがないとの事で、総務省担当者は感激されていました。

その時も、その後も、檜山町村会としても、せめて半分でもいいので、更なる支援をと総務省や与党議員に訴えてきたところでしたが、昨日、乙部の寺島町長との電話で 2 分の１程度で補正予算が組まれるとの情報を聞き期待をしているころです。

これからも、地域の実情や願いをしっかりと伝えていくよう努めて参ります。

今年は、第５次の総合計画策定の年となります。１０年先を予測することは難しく、情勢変化による修正・変更前提の策定となりますが、しっかりと取り組んで参りたいと思います。

がんばり甲斐・働きがいのある　そして、皆様にとって期待の持てる年となりますことをご祈念しご挨拶といたします。